こうしてほしい　私はこう思う　あれはおかしい

市政への声にお答えします

～市長への手紙・e－HOT函の紹介～

市では、市民のみなさんの市政に対するご意見・ご要望を寄せていただき、それについて市長の回答をお送りする「市長への手紙」を行っています。また、今年の4月から大館市ホームページ内で電子メールでご意見・ご要望を送っていただく「e－HOT函」を始ました。寄せられた提言・意見はいずれも今後の施策の参考にさせていただいています。

4月1日～9月30日の半年間で市長への手紙が20通、e－HOT函が14通、合わせて34通の貴重な声が届きました。ここでは、手紙と回答の要旨を紹介します。

福祉

秋田県の高齢化社会の進み具合には驚いています。福祉政策を充実させて、高齢者にやさしいまちづくりをしてください。（40代　男性）

高齢者の各種活動を支援し、職業能力を生かせる場を提供します

大館市の人口に占める六十五歳以上のかたの割合は二三・三％と全国的にも高い水準となっています。こうした急激な高齢化に対して、保健・医療・福祉が一体となって、市民の多種多様なニーズにおこたえし、総合的な福祉サービスを提供する「トータルケアシステム」の計画を平成九年に策定しています。また、高齢者の生きがい対策として、高齢者の交流や学習活動などに重要な役割を果たす「老人クラブ」への支援、高齢者が長年培ってきた職業能力や技術を生かす場である「シルバー人材センター」への積極的な業務の委託を進めています。

今年四月から介護保険制度が始まり、各市町村の福祉に対する工夫をこらした独自の取り組みが重要になってきました。当市でも施設・人材両面で十分な福祉サービスの提供を目標として努めています。

子どもの医療費が無料になる、福祉医療制度の所得による制限をなくしてほしいのですが。（30代　女性）

制度の継続には、所得に見合った負担も必要です

「福祉医療制度」は秋田県が行っている制度でもあり、今年八月から対象年齢が四歳未満のお子さんから就学前のお子さんまでに引き上げられました。大館市でも同様に実施しておりますが、これには所得による制限があります。ただし、大館市では独自に二歳未満のお子さんの医療費全般と二歳のお子さんの入院費に限り無料にしています。

この制度を安定的に維持していくためには、所得に見合った適正な負担も必要だと考えています。しかし、乳幼児の健やかな成長を手助けする重要な制度として、関係機関に制度の拡充を働きかけていきたいと思います。

商業・観光

市では、市営大町住宅などを郊外に移転、新築するそうですが、中心市街地の活性化の点から、商店街の中に建てることはできないでしょうか。（市内高校　研究グループ）

中心市街地への建築を目指し、バリアフリー住宅、複合施設を考えています

高齢者が徒歩で気軽に買い物ができ、ふれあいの場として活気ある商店街にするためにも、市営住宅の大町中心部への改築は大変重要なことだと思います。ただし、現在地での改築では建物の中高層化や駐車スペースの確保が必要となり、用地の買収などで膨大な費用がかかりますので、非常に難しい状態にあります。

大町住宅の周辺には老朽化が進んでいる新町・中町・向町の三つの市営住宅があります。大町住宅